本模擬問題における問題等の著作権はすべて東京CPA会計学院に帰属します。無断転載・二次利用は固く禁止いたします。

第４問（20点）

オカキヨ製作所では、製品Ａを製造している。製品Ａは、第１工程の始点で材料Ａを投入した後、第１工程完了品を外注先に送り、戻ってきた外注品を第２工程に投入し、これに加工を施すことで完成する。以下の［資料］にもとづき、各問に答えなさい。

［資料］

１．製品Ａの生産データ（製品Ａ１個の製造には材料Ａを１個必要とする）

製造指図書	製造量	当月直接作業時間		外注加工	備考
		第１工程	第２工程		
＃101	240 個	―	90 時間		前月着手、当月完成
＃102	270 個	150 時間	220 時間	○	当月着手、当月完成
＃103	280 個	170 時間	240 時間	○	当月着手、当月完成
＃104	360 個	210 時間	60 時間	○	当月着手、仕掛中
＃105	300 個	190 時間	―		当月着手、外注先
合計	1,450 個	720 時間	610 時間		

※ 前月繰越額は 1,960,000 円（直接材料費 720,000 円、直接労務費 400,000 円、直接経費 240,000 円、製造間接費 600,000 円）である。＃101 は前月に 160 個完成しており残りは当月に完成した。なお、＃104 のうち 60 個は当月中に完成している。

２．材料Ａの予定単価等は次のとおりである。なお、予定消費賃率は両工程で同一のものである。

予定消費価格　3,000 円/個　　予定消費賃率　2,000 円/時間　　予定配賦率　直接労務費の 150%

３．当月の外注品が加工を終えて納品されたときに外注加工賃（950 円/個）を直接経費として計上する。なお、当月中に納品されたものは、［資料］１．の外注加工の欄に○を付している。

問１　個別原価計算によった場合の仕掛品勘定を作成しなさい。

問２　総合原価計算によった場合の仕掛品勘定を作成しなさい。ただし、以下の条件にもとづくこと。

⑴　月初・月末仕掛品の加工進捗度は便宜的に 50%として計算する。

⑵　月末仕掛品の評価方法は先入先出法による。

⑶　外注加工賃は、加工費に含めて計算する。

⑷　製造工程は２つに分かれているが、計算上は単一工程とみなして計算する。

⑸　前月完成品部分（＃101 のうち 160 個）は製品勘定で処理されているものとし、前月未完成品は月初仕掛品として扱う。

禁無断複写・無断転載

第５問（20点）

プラ工場では、製品Ｑを製造しており、実際単純総合原価計算を採用している。以下の［**資料**］にもとづき、答案用紙に示された各金額を求めなさい。

［**資料**］

［当月の生産データ］

月初仕掛品	500個	(30%)
当月投入量	2,500個	
合計	3,000個	
正常仕損	100個	
月末仕掛品	400個	(70%)
完成品	2,500個	

※（　）内は、加工進捗度を示している。

［原価データ］

月初仕掛品原価	
Ａ原料費	480,000円
Ｃ原料費	92,800円
加工費	232,200円
小計	805,000円
当月製造費用	
Ａ原料費	3,000,000円
Ｂ原料費	2,610,000円
Ｃ原料費	1,273,446円
Ｄ原料費	1,572,455円
加工費	3,183,615円
小計	11,639,516円
合計	12,444,516円

（注１）　Ａ原料は工程の始点で全量投入、Ｂ原料は工程の40%時点で全量投入、Ｃ原料は工程を通じて平均的に投入、Ｄ原料は工程の終点で投入している。

（注２）　正常仕損は工程の途中で発生しており、度外視法により完成品と月末仕掛品の両者に負担させる。

（注３）　製造原価の計算にあたっては、すべての原料において、仕損の発生を考慮して計算を行う。

（注４）　月末仕掛品原価の評価方法は先入先出法による。

（注５）　端数が生じる場合には、解答の際に、小数点以下第１位を四捨五入する。